

●名曲で学ぶ 和声法 柳田孝義著
(商品コード：102420)

次のページについて、記載に誤りがありましたので訂正のうえお詫び申し上げます。

以下が正しい記載です。

(1) p.97 第2部 実習編 第7章 属九の和音

第2転回形からⅠの第1転回形への進行

- ・⑤、⑦は第7音が2度下降、バスが2度上行の結果Ⅰの第3音が重複されている。
譜例にあるように続く進行は互いに反進行するのが望ましい。
- ・⑥、⑧は第7音が内声にあり、導音と音程が4度であるとき、バスとⅠの第3音を重複させないために2度上行させることができる。これを代用解決という。

(2) p.140 第2部 実習編 第12章 副次調、副属の和音

練習例題7 ○参考実施例

7小節目3拍目の最下声部G音はオクターヴ高くなる(課題の方が正しい)

(正しい譜例 2段目)

代用解決

VI II V₇ II¹ V V₉ I² V₇ I

(3) p.199 第2部 実習編 第17章 音楽展開のための和声用法

練習例題5

1小節目3拍目の和音記号に第1転回形を示す記号を追加(参考実施例の方が正しい)

(正しい譜例)

原型

C: I VI V₇ VI